

鎌倉版 GBER

GBER とともに創る、シニアの新しい地域参加の形

2030年からは毎年100万人規模にまで人口減少が加速していきます。その労働力が枯渇していく一方で高齢化は更に進展し、2050年高齢化率は40%に迫り、今の社会の仕組みのままでは一人の現役世代が一人の高齢者を支えなければなりません。しかし果たして高齢者は支えられるだけの存在でしょうか。65歳以上の9割近くは自立した生活を営むことができ、その身体的な年齢も10年前の高齢者と比べると10歳若い人と同水準という研究報告も出てきています。ひとりの一生が100年に迫ろうとしている時代。新たに獲得した人生の時間には、もっといろいろな可能性があるのではないのでしょうか。

高齢者は支えられるだけの存在ではなく、逆に少数の現役世代をバックアップできる力を持っています。その力を活かせる社会をつくることができれば……これがGBERの目指す世界観です。情報通信技術を活用することで、高齢者と仕事、高齢者と地域を繋ぐ。退職した後に住まうまちを知り、自身の可能性を発見し、地域の必要に応じていく。それも一人でではなく、同じ地域に住まう仲間たちの力を組み合わせれば、今まで考えもしなかった分野に関わるワクワクも生まれるかもしれない。身体と心をいたわることももちろん忘れずに。GBERが、これからの新しい一歩を踏み出そうとするときに地域の活動やお仕事への扉をかるく開いてくれる。

そんな風に日々の生活に寄り添う存在にGBERをしていきたいと思っています。

一橋大学 ソーシャル・データサイエンス教育研究推進センター 教授

東京大学 先端科学技術研究センター 特任教授

檜山 敦

